

パネルディスカッション

テーマ

人を惹きつける 木のデザインとは

JR九州の駅舎、車両等を 木質化し、旅の楽しみに

日高淳一氏

JR九州には、566の駅舎がありますが、約130が昔ながらの木の駅です。新たに天然木材を使用した駅舎は、湯布院駅をはじめ日豊線の日向市駅などです。日向市駅は2007年に完成、杉の生産日本一の宮崎県産材、集成材ならびに間伐材を使っています。市で整備いただいた駅のエントランス周辺にも杉材が多く使われ、市のシンボルにもなっている状況です。また、これから着工する新幹線熊本駅も、ふんだんに木を使う計画で進めているところだ。

車両の木質化については観光特急の一部から採用が始まり、いわゆる通勤車両、さらに今回の九州新幹線にも使用しています。博多から大分まで湯布院経由で走る「ゆふいの森」号、肥薩線の「はやとの風」号、「いさぶろう・しんべい」、さらにSLと、フーリングなどの部分部分に使用したり、日南線の「海幸山幸」では、車体そのものまで木を採用しています。

6月には阿蘇に向かう子ども向け列車「あそぼーい!」、10月には大人のムードをかもし出す三角線の「A列車で行こう」なども全面的に木質化を進めました。そして九州新幹線にまで木を使いました。博多から鹿児島中央までを走る800系で、座席にも木を使っています。

当初は製作やメンテナンスに無理があると難色を示していた担当メンバーも、実際にお客様が喜んでいるのを感じ、いい方向に変わってきています。これからは木の温もりを旅の楽しみに感じていただけるような駅舎、車両作りをしていきたいと思っています。



「はやとの風」 運転区間:日豊本線 吉松-鹿児島中央
800系新幹線つばめ 運転区間:博多-鹿児島中央



九大本線 湯布院駅 W造1階
日豊本線 日向市高架駅 RC造、一部W+S造(国庫補助による連続立体交差事業にて整備)



中村展章氏

LEED認証の環境建築、 里山広葉樹活用等への取り組み

4月に大濠公園にオープンしたスターバックスが、環境省「省エネ照明デザインアワード」の優秀事例、第24回福岡市都市景観賞を受賞されました。この店舗の大きなポイントは、アメリカのLEED認証を得た建築物であることです。これは、アメリカのグリーンビルディング協会が開発する環境性を評価するシステムで、サステイナブルな敷地、水効率、エネルギーと大気、資材と資源、室内環境の品質、革新性とデザインの6つが基準となります。LEED認証ではFSC認証木材が必要項目となっており、これまでの取り組みを活かす絶好の機会となりました。

「諸塚村里山広葉樹活用プロジェクト」は、林野庁の地域材製品利用モデル開発推進事業の助成を受けて取り組んでいます。外材でなく国産の広葉樹を活用することで、里山との関わりを作り直し、中山間地の深刻な過疎高齢化、日本の技術の空洞化を超えて、都市と山村の連携、もの作りを持続可能にしようとするものです。

大切にしている視点は、一攫千金的な発想ではない地域内でのモノ・カネの循環、小さな産業への取り組みです。多様な森の生態系と多様な利活用、経済合理性優先の大量生産・流通型の単一的な資源利用が難しいどんぐり材を、逆にその良さを活かした里山広葉樹の活用へのひとつのモデルとして提示したいと考えています。

また、日本木材青年団体連合会では「木づかい二酸化炭素固定量認証制度」が、今年から動き始めました。木材需要拡大と森林整備の促進により、二酸化炭素の吸収・炭素の貯蔵を図り、地球温暖化防止に貢献することが目的としています。



「木づかい二酸化炭素固定量認証制度」の有償で交付される認証木製プレート
どんぐり材キャラバン
コナラ・クヌギ原木



どんぐり材によるエコプロダクツ製品(2010年)
試作したテーブル&チェア(2010年12月)



阪根 宏彦氏

木を活かした 建築・デザイン

これまで行ってきた設計の実践、作品を通して木を活かしたデザインをお伝えしたいと思っています。

二宮のアトリエ

彫刻家のアトリエで硝子に包まれた木造建築です。3本の南洋材の原木から製材し、フレーム構造です。

「東京大学 向ヶ岡ファカルティハウス」

創立130周年の記念館で、農学部弥生キャンパスの緑の中にあります。在来木軸構法を採用し、準耐火です。本漆喰の建物で市松の構成で、無垢材をたっぷり使用した内装や家具、椅子も作っています。

「世界遺産熊野本宮館」(設計J)

木造の博物館です。聖地熊野をイメージし天空光が二重の杉の壁で拡散し、ホールに光を満ちさせます。

「東京大学農学部五月祭フオーリーThe Nave」

東大の5月祭に設計し、3軸の継ぎ手特徴です。展示空間で、飢肥杉のフレームを回転させています。

「佐久平の家」

開口に3mのLowie硝子を柱に直接入れ、南東の冬の光をたっぷり受けます。本漆喰で天井は椀材です。

「九州大学伊都キャンパス・燃料電池足湯施設」

九大開発の杉注入処理材を連続格子で籠状にし、自然光が乱舞します。中に廃熱利用の足湯があります。

「九州大学伊都キャンパス・新学舎」

長年愛され解体となった学生会館を作る計画です。演習林の樹齢百年の檜を伐採から立ち会いその姿に感激しました。大切に活かすことを検討しています。



東京大学農学部 五月祭フオーリー "The Nave"
東京大学(本号) 向ヶ岡ファカルティハウス
佐久平の家 外観
二宮のアトリエ

Panel Discussion



木を知り、木を活かし、森と生きる 安藤直人氏

いわゆる木材産地と福岡都市部どうやって結ぶのか。結局は、私たち自身が森に生かされているという意識が必要です。ここ10年ほど言っていることなんですが、キーワードは「かき・く・け・こ」。環境・教育・暮らし・健康・こころ...いろいろな段階で、木でものを説きデザインしていくことが大切です。みなさんの話の通り、山側と都市部がつながるイメージ、そしてデザインの可能性を広げることが、木材の需要拡大

や森林の保護、活用につながっていくと思っています。県産材を「圏産材」ととらえ、少しゆるやかな範囲での木材流通を進めて行くことが建築利用に結びついていくと思います。